

① 研究主題

**自ら考え 表現できる子どもの育成**  
～問題解決に有効な見通しの持たせ方について～

全体構想

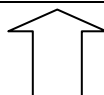
算数科を通して目指す子ども像

- ・自分の考えを表現できる児童
- ・既習したことを見通しとして活かすことができる児童



研究のねらい

子どもたち一人ひとりに問題解決のための見通しを持たせ、活動させることにより、自分の考えを表現できる児童の育成を図る。



研究  
**問題解決のための見通し**

- ① 見通しについての共通理解
- ② 既習事項の活用（既習事項の定着）
- ③ 日常的な指導のあり方

② 主題設定の趣旨

算数科の研究を始めて、二年目となるが、昨年度は、研究テーマを「自ら考え、表現できる子どもの育成」として研究を進めてきた。一年目の研究の成果としては、全校的に学習過程をできるだけ統一して、子どもたちや教師が同じような授業の進め方をめざした。また、ノート指導もできるだけ、学習過程に沿った形をとってきた。その結果、昨年度の佐賀県学習状況調査やCRTテストからみえる子どもたちの実態では、全体的に落ち込んでいる観点や領域は、あまりなかった。特に、上学年（4・5・6年）のCRTの領域では、ほとんど全国比より高い結果が出た。しかし、学年によっては、図形や数のしくみで全国比より差があったところがあり、評定からみると算数ができる、できないに差があったりしたのも事実である。また、指導する方としても「見通し」や「まとめ」ということの共通理解が曖昧になって、研究の方向性が一貫しないこともあった。

このような現状を踏まえ、今年度は、昨年度の「考え、表現する」ということを子ども達や教師、双方から分かりやすく提起して研究を進めていけたらと考えている。そのために、昨年度の反省にもあっためざす子どもの姿や教師の姿勢をできるだけ具現化して、提案していこうと考えている。

③ 研究の目標

自分の考えを表現できる児童の育成をめざす。

※ 自分の考えを表現できるとは・・・自分の力で問題を解決し、答えを出すことができる。

④ 研究の仮説

一人ひとりが問題解決のための見通しを持って活動すれば、自分の考えを表現できるようになるであろう。

⑤ 研究の内容

今年度も研究の中心は、「自分の考えを表現する」ことである。ただ、昨年度と違う点は、子どもたちに問題解決をさせるためにしっかりと見通しを持たせるところである。見通しについてはさまざまなものがあるが、本校では、その見通しについて共通理解を図り、どんな見通しを持たせるのかを明確にし、問題解決に取り組ませようと考えている。また、そのほかの研究内容では、昨年同様、見通しをしっかりとしたものにするために既習事項の活用を引き続き考えていきたい。そして、既習事項を活用できるように授業1時間のまとめの段階で、子どもたち自身が学習したことを意識できるようなまとめ方も工夫していきたい。

ア 見通しについての共通理解

【見通しの種類】

- ・ 単元全体の見通し・・・単元の中で何を学ぶか？
- ・ 1時間の学習の見通し・1時間の学習で何を学ぶか？（めあてとして提示）  
    どんな学習の流れになっているか？（学習過程・ノートまとめ方）
- ・ 問題の見通し・・・題意をつかむ（分かっていることや聞いてあること など）
- ・ 解決方法（手段）の見通し・・・何を使って考えるか？（線分図や関係図 など）
- ・ 解決の見通し・・・実際に答えを導き出す（どんな計算か、どんな図か など）
- ・ 答えの見通し・・・答えの予想（だいたいいくらぐらいか？）

一般的に、以上のような見通しが考えられるが、今年度、本校の授業での重要な見通しは、「問題の見通し」「解決方法の見通し」「解決の見通し」の3つを考えている。これを教師自身が意識して授業を展開していけたらと考えている。

イ 既習事項の活用につなげるために

（多様な表現方法の取得、考え方の基底の拡張、基礎基本の定着も含む）

- ・ ドリルタイムなどで既習事項の補充を図る。
- ・ 1時間の学習のまとめの工夫。  
    （穴埋め式にして、子どもたちと一緒に考えたり、できるだけ算数用語を使ったりしてまとめる。また、前時のまとめを次時の導入に活用し、既習事項の定着を図る。）

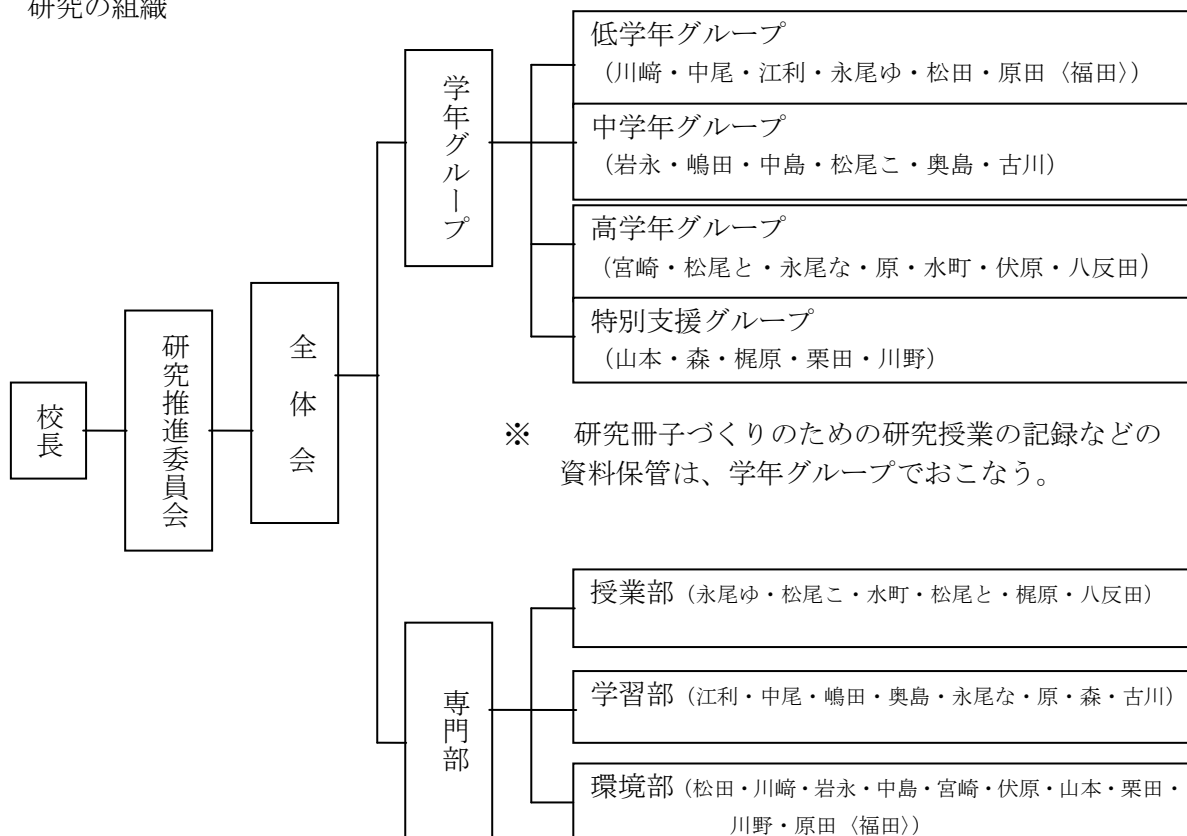
ウ 日常的な指導のあり方（系統性を考慮したもの）

- ・ ノート指導（かき方）・・・ノートのかき方を知ることにより1時間の学習の見通しを意識できる。
- ・ 基礎基本の定着（ドリルタイムや復習の時間の設定）

⑥ 研究の方向性

昨年度の研究の方向は、「さぐる（自己解決）に向けての工夫したところ」だったが、今年度は、もう少しポイントを絞って「さぐるための見通しの持たせ方」に視点を置くことにした。子どもたち一人ひとりが「自ら問題解決するためには、どんな見通しをどう持たせるか」が今年度の研究の中心にしようと考えている。

⑦ 研究の組織



⑧ 専門部のねらいと内容

部	ねらい	主な内容として
授業部	学習の基本となる取り組み方について考える。	・ ノートのかき方 (研究) ・ 先進的研究の紹介? など…
学習部	基礎基本の定着を図るための学習問題などを作成する。	・ ドリルタイム用プリントの枚数確認・補充 など…
環境部	算数の研究を醸し出すような校内の雰囲気づくりなどを行う。	・ 掲示板の活用 など…

⑨ 研究計画 (4/22 現在)

月	日	研修内容	
4	16	研究推進委員会	研究主題・仮説・内容・方法・専門部についての提案
	22	第1回 全体会	研究主題・仮説・内容・方法・専門部についての提案、協議
		グループ研	授業研究会の授業者・専門部担当の決定 (5/9 まで)
6	3	第2回 グループ研	学年の目標や具体的な手立てについての協議
	24	第3回 専門部研	活動内容の検討・計画
7	29	第4回 専門部研	2,3 学期に向けての活動準備

8	部会ごと 26	第5回 専門部研 第6回 全体研 グループ研	2,3学期に向けての活動準備 専門部からの取り組み報告・提案 教材研究、指導案作成・検討（随時）
	9	第7回 グループ研	教材研究、指導案作成・検討
10	7	第8回 全校授業研究会	
	21	第9回 全校授業研究会	
	28	第10回 グループ研	教材研究、指導案作成・検討
11	4	第11回 グループ研	教材研究、指導案作成・検討
	11	第12回 グループ研	教材研究、指導案作成・検討
	18	第13回 全校授業研究会	
1	13	第14回 グループ研	研究授業、授業研究会 等のまとめ
	27	第15回 グループ研	研究授業、授業研究会 等のまとめ
2	3	第16回 グループ研	年間反省と次年度への方向
	17	研究推進委員会	年間反省と次年度への方向
※ 研究推進委員会は、随時行う。 専門部会は、夏休みを中心に実施する。			

⑩ 授業研究会の持ち方

- 低・中・高学年・特別支援グループを中心に教材研究を進め、情報交換をしながら、指導力向上に生かす。
- 全校授業研究会は、低・中・高学年1つずつ（後の学年はグループ研）特別支援グループ（計4回）が実施する。
- その他の学級は、同学年を基本に、先行授業や事後授業などで、授業研究会を行う。
- 授業後の研究会は、提案の視点に沿って話し合いを進めるようにする。（司会・進行は該当学年グループで）
- 昨年度同様、指導案の最初に本授業の視点を書き、それを中心に研究会の協議の柱にする。